

## 四色に輝く蓮

青い蓮は青く光り、黄色い蓮は黄色く光り、赤い蓮は赤く光り、白い蓮は白く光る。

これは『仏説阿弥陀経』に説かれている、お浄土にある池の中の蓮の花を表現されているものです。

先日あるご法事の席でのことでした。一人の青年に「今何をしているの?」と尋ねたら「就活中。無難なところで、とりあえず IT 関係に絞って就活しています」と、悪ぶれた様子でも無く、淡々と語る青年に「貴方は何色に輝いていると思いますか」と尋ねると、暫く間をおいて「グレー(灰色)ですかね」と答えてくれました。私が「就活スーツみたいですね」と、突っ込むと青年は「無難で良いでしょう」と微笑みました。グレー、無難、のキーワードに込められた昨今の若者の人生観の一端を見る思いがしました。『疲れず・目立たず・遅れを取らず』的中戦術を、現在の若者は知らず知らずに身に付けてきているのかもしれない。

四色に輝く蓮の有様は、何も回りの人々から格別に目立てということではないのでしよう。

日々、迷いながらも生活の糧を、それぞれの道を歩んでいける力を得る。縁あっていただいたこの命に向き合うことが出来る瞬間瞬間に、それぞれの色が、それぞれの光で、おのずと輝き始めるのだと思います。